

2023年2月号

JTCC ニュース

(一社) 日本繊維技術士センター

I. (日本繊維技術士センターの行事予定)

(一社) 日本繊維技術士センターのホームページは、「繊維JTCC」で検索できます。

< JTCC開催講座のご案内 >

(対面講座のコロナ対策: 募集人員の制限、体温が37.5℃以上の方は受講不可、マスク着用、手の消毒を実施)

◆ 「知っておきたいアパレル製品の基礎知識」Part II 開催のご案内 (添付資料参照)

(オンライン方式で開催(Microsoft Teams を使用します))

PART II

1. 日程と時間

LIVE: 2023年2月25日(土)、3月4日(土) 時間: 10時~17時

録画: 2023年3月7日(火)、3月14日(火) 時間: 10時~17時

2. 会場

オンライン方式で開催(Microsoft Teams を使用)

3. 講座スケジュール (講義の間に休憩時間があります)

| 日程 | テーマ | 時刻 | 時間(分) |
|-------------------------|---------------------------------|-------------|-------|
| 1日目 LIVE 2月25日(土) | 挨拶 | 10:00~10:10 | 10 |
| | I. アパレル製品の企画・設計 | 10:10~11:00 | 50 |
| | II. アパレル製品の縫製準備 | 11:00~12:30 | 90 |
| | 休憩 | 12:30~13:30 | 60 |
| 録画 3月7日(火) | III. アパレル製品の縫製・仕上げ加工・設備 | 13:30~16:00 | 150 |
| | IV. アパレル製品の無縫製技術 | 16:00~17:00 | 60 |
| 2日目 LIVE 3月4日(土) | V. アパレル製品の検査 | 10:00~11:00 | 60 |
| | VI. 小売り、流通から見たサステナブルを標榜したアパレル製品 | 11:00~12:00 | 60 |
| | 休憩 | 12:00~13:00 | 60 |
| 録画 3月14日(火) | VII. アパレル製品の表示と法令 | 13:00~15:00 | 120 |
| | VIII. アパレル製品の生産トラブルとその対応 | 15:00~17:00 | — |
| | VIII-1 苦情事例<地糸切れ> | 15:00~15:30 | 30 |
| | VIII-2 苦情事例<シームパッカリング > | 15:30~16:00 | 30 |
| | VIII-3 苦情事例<滑脱> | 16:00~16:30 | 30 |
| VIII-4 苦情事例<安全性> | 16:30~17:00 | 30 | |

3. 受講料と定員... ￥20,000(税込み) 50名

4. 申込み方法... JTCC ホームページ: <https://jtcc.or.jp/> から、または添付資料の申込み書に記入し JTCC 本部宛 FAX 或は、E-mail でお申し込み下さい。FAX: 06-6484-6575
E-mail: jtcc-ed-apa@mbr.nifty.com <申し込み期限: 2023年2月17日(金)>

◆オープンセミナーを令和5年3月25日(土)に開催します。(添付資料参照)

(後日、録画配信を行います。)

<オープンセミナーの案内>

| NO | 講義方法 | 日時 | 配信方法 | 申込み期限 |
|----|------|------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 | LIVE | R5年3月25日(土) 14時～16時 | Teams | 3月22日(水) 申込受付後招待状を送信します。 |
| 2 | 録画1 | R5年4月9日(日) 14時～16時 | Teams | 4月5日(水) 申込受付後招待状を送信します。 |
| 3 | 録画2 | R5年5月13日(土) 14時～16時 | Teams | 5月10日(水) 申込受付後招待状を送信します。 |

注)R5年4月9日(日)のセミナーに変更になっています。(従来は、4月8日(土)でした。)

- ・内容 ①技術士資格について
- ②技術士試験の内容説明
- ③技術士受験講習会の案内
- ④技術士試験合格者から:勉強方法、資格取得後のメリットなどの説明
- ⑤質疑応答

・申し込み方法

①JTCC ホームページ:<https://jtcc.or.jp>

②JTCC 本部あて、E-mail:jtcc-ed-os@mbr.nifty.com でお申し込み下さい。

氏名、会社名、所属部署、連絡先(TEL/FAX、メールアドレス)を明記願います。

後日、受講の招待メールを送信します。

一般社団法人 日本繊維技術士センター教育活動委員会
〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目4番9号 輸出繊維会館内6階
(TEL 06-6484-6506 FAX 06-6484-6575)

◆JTCC「公開講演会」

(詳細、参加申し込みはJTCCホームページをご覧ください。)

| 名称 | 内容(講師) | 日時 | 会場 |
|-----------------|--|------------------------------|-------|
| 第91回 JTCC 主催 | 講演1.「架橋設計に応じたりサイクル可能な修復性超分子材料の創造」 大阪大学 教授 高島義徳氏、以倉峻平氏 | 2月4日(土) 13時30分～ 16時30分 | オンライン |
| | 講演2.「スポーツの勝敗に影響するセンシング情報」 関西大学 鳴尾丈司氏 | | |

公開講演会の参加費(税込み): 2000円 オンラインの場合「資料のみ」の参加は不可です。

ユニチカトレーディング株式会社

UNITIKA
We Realize It!

変わる。生まれ素材で世界は

素材のクオリティが、
サステナブル社会の推進力になります。

サステナブルな社会の実現のために、素材は大きな役割を担っています。
ユニチカでは環境と共生する暮らしの実現を優先課題の一つに掲げ
「for the EARTH」というテーマのもとグループ全体で製品づくりに取り組んでいます。
生活と環境に選ばれる素材でサステナブルな社会を推し進めること。
私たちがお届けしたいのは、未来に咲き続ける豊かな暮らしです。

技術 発想力
素材で未来をカタチに。

UNITIKA ユニチカトレーディング株式会社
U.T.C. www.unitrade.co.jp

for the
EARTH

明日の地球生活のために。
ユニチカのエコ・環境素材

2023 UNITIKA Ambassador/Chion Tanaka
ユニチカ魔法学院

II. (業界ニュース)

1. 経済産業省(生活製品課)

「繊維製品における資源循環システム検討会」

繊維製品分野に関しては、特に欧州において、環境配慮対応や人権デュー・ディリジェンスなどのサステナビリティに係る取組が急速に進展しています。こうしたグローバルな動向を踏まえ、我が国の繊維関連企業が、今後需要拡大が見込まれる海外市場においても競争力を維持・確保していくためには、繊維製品の資源循環システムの課題を整理し、必要な施策を講じていくことが重要です。

このため、経済産業省では、「繊維製品における資源循環システム検討会」を開催します。

第1回 開催日時

令和5年1月20日(金曜日)10時30分から12時30分

今後のスケジュール 第2回回収・分別に関する現状と課題 日時:2023 年 2 月 場所:経産省会議室及びTeams

● 環境省の取組及び現状の制度

● 回収・分別に関する取組(企業等からプレゼンテーション) 第3回繊維の資源循環に関する海外動向について

日時:2023 年 2~3 月 場所:経産省会議室及びTeams

● 繊維の資源循環に関する海外動向(企業等からプレゼンテーション) 第4回販売、表示及び消費者意識に関する現状と課題

日時:2023 年 3~4 月 場所:経産省会議室及びTeams

● 販売、表示及び消費者意識に関する現状と課題

● リサイクル繊維の活用に取り組み(企業等からプレゼンテーション) 第5回繊維技術ロードマップ、衣料品以外の技術・取組について

日時:2023 年 4 月 場所:経産省会議室及びTeams

● 繊維技術ロードマップの進捗状況について

● その他、不足している論点について(補足) 第6回とりまとめ

日時:2023 年夏頃 場所:経産省会議室及びTeams

● 全体のとりまとめ

配布資料

- ・ 繊維市品の資源循環システムをめぐる現状と課題
- ・ サステナブルファッションの推進に係る取り組み
- ・ 繊維製品の資源循環システムの構築に向けた技術開発について
- ・ 繊維 TO 繊維リサイクルの課題(帝人フロンティア(株))
- ・ 廃棄衣料を新たな資源にするアップサイクル L ∞ PLUS の取り組み(倉敷紡績(株))
- ・ 今後のスケジュール

2023年1月~4月 計5回開催 夏ごろに取りまとめを行う。

注)これらの情報は、経産省生活製品課「繊維製品における資源循環システム検討会」を見てください。

2. 環境省

・新着情報なし

3. 日本化学繊維協会、日本綿業振興会、日本染色協会

● 日本化学繊維協会 (詳細は化繊協会のホームページ参照してください)

2023 年 1 月 20 日に JIS L1030-4「繊維製品の混用率試験方法—キュプラ及びリヨセル」が制定されました。

JIS L1030-4 は 3 つのパートで構成されています。

JIS L1030-4-1 繊維製品の混用率試験方法—第 4-1 部

キュプラ及びリヨセル—走査電子顕微鏡法及びスペクトル分析法による繊維鑑別

JIS L1030-4-2 繊維製品の混用率試験方法—第 4-2 部

キュプラ及びリヨセル—光学顕微鏡法による繊維混用率試験方法

JIS L1030-4-3 繊維製品の混用率試験方法—第 4-3 部

キュプラ及びリヨセル—スペクトル分析法による繊維混用率試験方法

●日本綿業振興会（詳細はホームページ参照）

- ・新情報なし

●日本染色協会（詳細はホームページ参照）

■京都染色研究会 第790回研究例会開催のお知らせ

京都染色研究会から、2月22日(水)に開催されます、「第790回 研究例会」の案内

日 時: 令和5年2月22日(水) 13時55分～16時35分
場 所: Microsoft Teams によるオンライン開催
テーマ: 「2030 年に向けた繊維産業の展望」
【講師】 経済産業省 製造産業局 生活製品課 課長補佐 高橋 達也 氏
テーマ: 「繊維技術ロードマップについて」
【講師】 東京工業大学物質理工学院 特任教授 鞠谷 雄士 氏

参加費は、

京都染色研究会会員:無料
協賛団体 :1,000 円/人
一般参加申込 :3,000 円/人

4. (一社)日本衣料管理協会、(一社)繊維評価技術協議会(織技協)

●(一社)日本衣料管理協会

| 2023 年度 TES試験のスケジュール(予定) | |
|--------------------------|---|
| 試験日 | 2023 年 7 月 9 日(日) |
| 日程 | 4 月 1 日～5 月 12 日 願書配布 5 月 1 日～5 月 19 日(消印有効) 願書の受付 7 月 9 日(日) 試験日 9 月中旬 試験結果発表 11 月 1 日 認定日 |
| 試験会場 | 東京試験場 未定(決定次第お知らせします)名古屋試験場 ウィルあいち京都試験場 京都女子大学福井試験場 未定(決定次第お知らせします) 倉敷試験場 倉敷ファッションセンター福岡試験場 JR 博多シティ会議室 |
| | ※新型コロナウイルスの感染状況により、試験会場の変更や試験を中止する場合があります。 最新情報は随時ホームページにてご案内します。 |
| 受験資格 | 学歴・年齢を問わずだれでも受験することができます。 |

●(一社)繊維評価技術協議会(織技協)

- ・新着情報なし

●関西ファッション連合

- ・2023年1月10日に新春賀詞交歓会が開催されました。

国会議員、府会議員、繊維業界代表者など多くの方からの祝辞と本年の抱負が述べられました。



抱負の述べられる、**中村房雄**理事長

Ⅲ.(技術情報)

詳細な内容は各学会誌、月刊誌をご覧ください。

◆<繊維学会誌> 2022年12月号



特集<技術賞より>

○複合紡糸技術 NANODESING® による新素材“Kinari”の開発

東レ(株) 松浦知彦、増田正人、川原慎也、藤田和哉

1. はじめに: シルクの代替繊維として開発した。
2. 当社(東レ(株))のシルキー合繊素材への取り組み
シルック、シルック・シルデール、シルック・ロイヤル、シルックデュエット、
その後“Kinari”(キナリ)を開発した
3. シルクの分析 シルックと絹織物と比較すると絹織物の空隙率と空隙サイズは、
2倍である
4. 新素材“Kinari”の創出
(1)成分の異なる3種類のポリマーを精密に設計した海島複合繊維として開発した

(2)素材の特徴

A. 嵩高性、軽量感 B. 絹鳴り(摩擦係数の向上) C. 自然な光沢 D. 高い可縫性(パッカリング性)

5. おわりに 最新の複合紡糸要素技術を活用することで実現した。

○三次元網状繊維構造体「ブレスエアー®」～機能・驚きそしてEarthへ～

東洋紡(株) 小淵信一

1. 2013年に繊維学会技術賞を受賞した「ブレスエアー®」の展開について紹介する。

2. 「ブレスエアー®」の機能:基本特性

「ブレスエアー®」は、ゴム状弾性を持つポリエーテル・エステルエラストマーのフィラメントからなる三次元網状構造体である。

「ブレスエアー®」の特徴:クッション性に優れる。耐久性に優れる。通気性がある。体圧分散性に優れる。軽量化が可能である。易洗浄性がある。抗菌性がある。環境適合性があるのでマテリアルリサイクルが可能である。

「JIS L 4500 熱可塑性三次元網状繊維構造体」への適応:反発弾性や耐久性1級を実現できている。

3. 「ブレスエアー®」が提供する驚き:技術的進化

3層構造「ブレスエアー®」の説明

「ブレスエアー®」ダブルプルーフ®の説明

4. 「ブレスエアー®」が創る明日:最近の採用事例と今後の展開

○セルロース長繊維複合糸による機能性肌着の開発

旭化成(株) 出口潤子

1. はじめに:男性用肌着において、「温熱特性」「皮膚特性」「動作性」「取り扱い性」を満足させる技術を追求した。

2. セルロース長繊維複合糸の開発

キュプラ繊維とポリエステル繊維の複合糸で試験を行った。綿 100%に比べて、上記特性が優れている。

3. 市場への展開

4. 応用開発

アトピー皮膚炎の患者に対して、かゆみ抑制効果を実証した。

<解説>

○テキスタイルの基本アイテム出現と今日のウェアブル・E-スマートテキスタイルとの関係

東洋紡(株) 前田郷司

1. 針と糸

導電繊維と導電糸:導電繊維(金属繊維)と非導電繊維(例:ポリエステル繊維)とより合わせて導電糸を作る。

2. 布

導電糸を使用して、織物や編物を作る。用途によって使い分けることができる。

3. 刺繍配線

少量の導電布を作るときに使用する。

4. 衣服のポケット

ポケットの中に電子機器を装着する。

<業界マイスターに学ぶ せんい産業資材の基礎知識—21、22>

○第4編 産業用途への応用

(一社)日本繊維技術士センター 森本国宏

(8)環境用途 ①地球環境問題の現状と環境調和型繊維技術

4. 8. 1 地球環境問題の現状と環境調和型繊維製造・加工技術

4. 8. 1. 1 環境問題とは

4. 8. 1. 2 日本国内の環境問題とその対策

4. 8. 1. 3 日本国内の環境法制度の特徴

4. 8. 1. 4 日本国内の環境改善に寄与した制度

4. 8. 1. 5 環境対策に寄与した繊維製品

4. 8. 1. 6 複数国に及ぶ環境問題

4. 8. 1. 7 地球温暖化問題の概要

4. 8. 1. 8 繊維産業の環境対策と技術革新

4. 8. 1. 9 まとめ

○第4編 産業用途への応用

(一社)日本繊維技術士センター 太田昌三

(8)環境用途 ②大気浄化

- 4. 8. 2. 1 はじめに
- 4. 8. 2. 2 除じんフィルタ
- 4. 8. 2. 3 脱臭フィルタ
- 4. 8. 2. 4 フィルタ加工技術
- 4. 8. 2. 5 バグフィルタ
- 4. 8. 2. 6 排ガス(溶剤)処理装置
- 4. 8. 2. 7 おわりに

◆<繊維製品消費科学会誌> 2022年12月号



解説

- 股ずれと愛とぱんつ (株)オーギュストケクレ 宇野史恵
- 衣服のように軽量で手軽に着用できる動作支援装置「DARWING Hakoberude」の開発 ダイヤ工業 小川和徳
- 「衣服の使用実態調査」トピックス調査の概要と分析 (一社)日本衣料管理協会 依田素味
- 「SDGsの17の目標に対する繊維各社の取り組み」2030年まであと7年、SDGsと繊維産業の今 日本繊維産業連盟 長 保幸
 - 1. 日本の現状を振り返って考える
 - 2. 人権問題と繊維産業
 - 3. 資源の有効活用
 - 4. EUの持続可能な循環繊維戦略
 - 5. 日本の繊維産業への期待

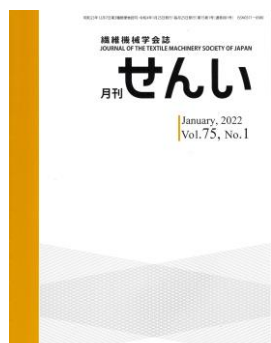
○衣服と人体を測り導き出した新たな知見

日本女子大学 大塚美智子

○関係性マーケティングの回帰—健康・スポーツ産業をケースとして—

武庫川女子大学 穂原寿識

◆<繊維機械学会誌> 「月刊せんい」 2022年12月号



- 食領域の置けるアップサイクルの動向 (株)コル 福本雅和 (アップサイクル:捨てられるものに価値を付加して新しく別のものに生まれ変わらせること。創造的再利用)
 - 1. 日本の食品産業の持続可能性に関する課題
 - 2. アップサイクルについて
 - 3. 食のアップサイクルに関する動向・事例

○繊維資材を用いた排水・汚泥処理技術 帝人フロンティア(株) 松本智樹、林 邦香

- 1. 帝人フロンティアの環境戦略
- 2. 水処理技術で目指すソリューション
- 3. 特殊繊維担体を用いた余剰汚泥削減型水処理技術の特徴
- 4. 特殊繊維担体水処理技術の実績
- 5. パネルタンク方式特殊繊維担体ユニット
- 6. 脱水助剤繊維
- 7. その他の水処理技術

○暑熱対策化学防護服の商品開発

東レ(株) 林祐一郎

- 1.はじめに 作業服の安全性と着用快適性を重視した、LIVMOA®3000とLIVMOA®4000について
- 2. 暑熱対策効果の検証

○資料

繊維技術ロードマップ

経済産業省 生活製品課

◆<日本技術士会誌> 「技術士 PE」 2022 年 12 月号



- 空から視る九州の大地形と地質の反映 応用理学部門 岩男雄四郎
- 多分野に共通な文書作成の勧め 電気電子部門 飯田敏幸
- 個体地球物理学、海洋学の最先端の話題に触れて 応用理学部門 木戸ゆかり
- AI 倫理めぐる論点:ICT プロフェッショナリズムとの関連 明治大学 村田 潔
- コンピテンシー教育において倫理が果たす役割 機械部門 松浦 淳

(月刊誌)

◆<加工技術> 2022 年 12 月号

新市場創造講座 -新市場を目指した繊維生産・流通システム

この連載は、2022年8月号から2023年9月号までの連載予定です。

○ファイバーメーカーの生産流通システム

(一社)日本繊維技術士センター 西中久雄

1. 化学繊維の種類
2. 化合繊製造会社の概況
3. 日本の繊維製品の生産・加工・流通のフロー
4. 化合繊の生産
5. 世界のポリエステル繊維の輸出入
6. 日本のポリエステル繊維の輸出入
7. 日本の不織布の生産と輸出入

○持続可能な循環型社会システムを目指した繊維リサイクルの最新動向 (下)

京都工芸繊維大学 木村照夫

8. アパレル・ファッション業界における最近の動き
9. サーキュラーエコノミー構築を目指す企業・団体の取り組み
10. 若い世代(学生たち)の SDGsに対する取り組み事例
11. グリーンウォッシュ

○食品のメイラード反応を利用した繊維の着色技術(5)

(地独法) 大阪産業技術研究所 大江 猛

—クロム染色の代替技術の検討—

7. 染色堅ろう度と繊維物性
 - 7-1 化学反応によるオゾン類の生成
 - 7-2 糖質の酸化物の調整と羊毛布の着色
 - 7-3 糖構造と着色濃度「の関係
 - 7-4 各種繊維材料の着色
 - 7-5 媒染処理の効果

○時空繊維 新たな日台交流の架け橋「蠟描壁掛」 嘉南大川工事模様

(一社)日本繊維技術士センター 八木健吉

◆<不織布情報> 2022 年 12 月号

当月は休刊

◆<新聞、他>

織研新聞

○2022年1月～10月の衣料品の輸入（数量:百万点、金額:億円、シェア:%、下段:前年同期比）

| 順位 | 国 | ニット衣料 | | 布帛衣料 | | 合計 | | | |
|----|---------|-------|--------|-------|--------|-------|------|--------|------|
| | | 数量 | 金額 | 数量 | 金額 | 数量 | シェア | 金額 | シェア |
| 1 | 中国 | 1175 | 7,195 | 631 | 6173 | 1,806 | 59.8 | 13,368 | 54.3 |
| | | ▲2.1 | 20.8 | 4.5 | 21.5 | | | | |
| 2 | ベトナム | 291 | 2,059 | 124 | 1873 | 415 | 13.7 | 3,932 | 16.0 |
| | | 8.9 | 39.1 | 15.7 | 44.2 | | | | |
| 3 | バングラデシュ | 173 | 759 | 66 | 691 | 239 | 7.9 | 1,450 | 5.9 |
| | | 9.4 | 32.6 | 7.8 | 38.5 | | | | |
| 4 | カンボジア | 121 | 646 | 55 | 666 | 176 | 5.8 | 1,312 | 5.3 |
| | | 5.4 | 30.1 | ▲0.4 | 33.9 | | | | |
| 5 | インドネシア | 47 | 359 | 34 | 420 | 81 | 2.7 | 779 | 3.2 |
| | | ▲12.5 | 10.3 | ▲1.5 | 19.2 | | | | |
| 6 | イタリア | 1 | 279 | 1 | 399 | 2 | 0.1 | 678 | 2.8 |
| | | 4.0 | 23.4 | 4.8 | 22.9 | | | | |
| 7 | ミャンマー | 70 | 376 | 67 | 828 | 137 | 4.5 | 1,204 | 4.9 |
| | | 49.3 | 106.8 | 52.8 | 88.4 | | | | |
| | 全世界 | 1,996 | 12,636 | 1,025 | 11,986 | 3,021 | 100 | 24,622 | 100 |
| | | 1.4 | 25.6 | 7.1 | 29.3 | | | | |

出所:日本貿易統計

「JTCCニュース」では、毎月数社の企業紹介や製品の案内をさせていただきます。

掲載をご希望の方は、jtccnews@mbr.nifty.com に投稿してください。（掲載料金は無料です。）

賛助法人・団体会員様の声(技術的な問題、JTCCに対する声などをメールでお聞かせください)

連絡先: jtccnews@mbr.nifty.com

JTCCニュース用のメールアドレスは、jtccnews@mbr.nifty.com です。

編集:一般社団法人 日本繊維技術士センター 企業接点強化部会 金田哲郎

一般社団法人 日本繊維技術士センター(JTCC)

本部事務所 〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目4番9号 輸出繊維会館6階

☎ 06-6484-6506 FAX 06-6484-6575 E-Mail jtcc@nifty.com

関東支部事務所 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-9(滋賀ビル506号室)

☎ 03-5643-5112 FAX 03-5614-0103 E-Mail jtcc-kt@nifty.com

東海支部事務所 〒460-0011 名古屋市中区大須1丁目35-18 一光大須ビル7階

(公財)中部科学技術センター内 ☎ 052-231-3043(代) FAX 052-204-1469